

当院 NST における臨床検査技師の取り組みと今後の課題について

◎下脇 千恵子¹⁾、斉藤 直輝¹⁾、市場 絵美子¹⁾、山内 一浩¹⁾
市立豊中病院¹⁾

【はじめに】

栄養サポートチーム（以下 NST）は入院患者の栄養サポートに努め、早期退院を支援している。当院の臨床検査技師においても NST 立ち上げ当初よりメンバーの一員として活動してきたので、その取り組みについて報告する。

【NST 業務】

2004 年 4 月、栄養管理委員会の下部組織として NST が立ち上がる。NST が介入する患者は、看護師と管理栄養士によって拾い上げられた入院中の栄養障害患者の中から、NST 委員長と管理栄養士により決定され、毎週水曜日にアセスメントシートを元にカンファレンスを実施している。カンファレンス後、医師・薬剤師・看護師・管理栄養士により病棟回診を行い、患者の状態をチェックしている。介入患者は毎回 10 名ほどである。

【臨床検査技師の取り組み】

NST 立ち上げ当初から、週 1 回、電子カルテに入力されている栄養障害患者一覧の Alb 値を最新の値に更新し、カンファレンスには最新の生化学・血算のデータを抽出し臨ん

でいたが、十分役に立てている実感は得られていなかった。現在は、患者個々のより詳しい検査データを提供できるよう生化学・血算以外の採血データ・微生物・輸血・生理機能検査のデータも抽出しカンファレンスに臨んでいる。また、栄養障害患者の拾い上げにおいて看護師からの抽出が低迷したため、Alb3.0 以下の患者を病棟毎にピックアップした一覧を毎週配布している。

【まとめ】

採血データに加え微生物・輸血・生理機能検査の結果も確認することによって、アセスメントシートには抽出されていない異常値を発信し、より適切な栄養サポートが行われるよう努めている。また、Alb3.0 以下の患者一覧を各病棟に配布することで看護師による栄養障害患者の拾い上げが増加した。カンファレンスを通して、検査データと患者の状態が必ずしも一致することはないため、今後は臨床検査技師も病棟回診に参加し患者を知ることが大切であると感じている。そのため、病棟回診へ積極的に参加する体制を整えていきたい。